

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

エペソ人への手紙一章二三節

2016(28)年 週 報

5月22日

「光の中を歩む」

第4 聖日

第 3456 号

聖
言

眠っている人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らされる。エペソ 5:14

主の弟子となる⑤

第一課 福音のメッセージ
使徒の働き一〇章三四節から四八節の短い注解を読んで考えましょう。

使徒の働きに出てくる、ペテロのメッセージの背景にあるものを理解することが大切です。そのために使徒一〇ノ一〜一ノ一八までをじっくり読んで見て下さい。使徒の働きのこの時点まで、福音はエルサレムとその周辺のユダヤ人だけに伝えられていました。エルサレムでは四万人ほどがクリスチャンになりましたが、まだ異邦人の信者はまだ誰もいませんでした。この使徒の働きにはじまるコルネリオの話は、福音が異邦人に伝えられた最初の出来事についてです。コルネリオは敬虔なローマ（異邦人）の軍人でした。また、ユダヤ人に好意的で、資金まで提供していた人物で、誠実に神を求めていました。しかしペテロは、他の教会指導者たちと同様、異邦人に福音を携えて行くのを躊躇していました。そこで、神は夢に介入され、ペテロにコルネリオの家に着くと、コルネリオは福音を聞きたいと願ひ出しました。

(CIBTE主の弟子より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一六年五月八日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「いこいの水のみぎわ」

「主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。」(詩篇二三ノ二) 「主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。」詩篇23…2

祈り

今日はオーブン礼拝の日です。地域の方々をお招きして共に神様を礼拝いたします。今も生きておられる神様を実感して礼拝させてください。また今日は三位一体の聖霊なる神様が降臨された記念の日でもあります。わたしたちの心に聖霊を満たしてください。神の愛を宣べ伝える力を与えてください。

以前、日本では安全と水はただであるといわれていました。本当はそうではないのです。緑の牧場、緑の十字架は労働災害のマークです。緑は心に癒しを与えます。緑は安全のシンボルです。主は緑の牧場なる、主の安全の中に伏させてください。狼やライオンもおそいきたつても、主が守ってください。眠れない。しんどい。一日の苦労は一日で足りる。思い煩う。どうしよう。思い煩いを主にゆだねて、伏させてください。空の鳥を見よ。野のゆりを見よ。刈らず。紡がないのに養っておられる。私たちも養ってください。

水のほとりに伴う。鹿が谷川の水をもとめるように、夏はビールがおいしい。しかし、度を越してしまう。主の水は命をあたえる。私に来て飲みなさい。その腹よりいける水が川川と流れでる。これは命の水、即ち聖霊です。ノンクリスチャンの方には渴ける心を潤してくれ、クリスチャンの方に詩篇四二篇、鹿が谷川の水をしたいあえぐように、御言葉の水でうるおされる。さらに命の水である聖霊と御言葉に満たされるのである。

この詩篇をつくったダビデほど波乱万丈の人生を送った。彼の勝利の源泉は緑の牧場と憩いの水のほとりである。すなわち、主イエスによる御言葉と聖霊の水が彼を勝利に導いた。

主はわたしたしにこのような幸いを与えるために、主は塗炭の苦しみに合われたことをわすれてはならない。わたしたちは当然火と硫黄の地獄の苦しみにあうのがふさわしい罪人である。そのような者を救い、義のみち、命の道に歩ませてくださる。

二〇一六年五月一八日午後七時 祈禱会 山本牧師

「エルサレム荒廢の七十年」(ダニエル連講第二〇回)

「すなわち、その治世の第一年に、私、ダニエルは、預言者エレミヤにあつた主のことばによつて、エルサレムの荒廢が終わるまでの年数が七十年であることを、文書によつて悟つた。」(ダニエル九ノ二)

ダリヨスという名はイランの古い称号であるとし、王が複数の名を持つことは、ティグラス。ピレセルがプルと呼ばれた例からしても、周知の歴史に合致していると論じている。ダリヨスはクロスである。彼はエレミヤの文章よりエルサレムの荒廢を七十年であることを悟り、バビロン捕囚のイスラエルの民を解放した。

リバイバルを祈る②

リバイバルは人間の手の働きを止めた時、神様の御手が動き出すのです。なんと、人はそれを待てないのでしよう。それは神の能力を信頼していません。紅海を分け、ヨルダンに流れを上流まで押し返してイスラエルの民を安全に渡した神様の御力を信じないのです。自分が行わねば、滅んでしまうと責任感の良いですが神様を信頼できないのです。ペンテコステの時、弟子たちは、恐れていました。復活の主が四〇日の間、弟子に現れました。

その時は、信仰を持ってましたが、昇天された後は、前のように怯えていました。彼らは主の約束のごとく、エルサレムを離れないで父の約束を十日間祈り、待ち望みました。そうすると、十日目に、一人一人の上に聖霊が降臨して、彼らは聖霊に満たされて、それぞれの国々の言葉で福音を語り出したのです。その日、聖霊を受けた。ペテロの説教を聞いた三〇〇〇人の人々が洗礼を受けて、教会に導かれたのです。リバイバルは教会の外でなく、内から起こります。また衰退した、問題のある、見た目にはとるにたらない教会を通して起こります。私たちの教会にリバイバルが起こされるように心を注いで祈りに励みましよう。